

グループ別テーマ「学力の基盤づくりとなる取組」

共通テーマ「授業づくりについて」

取組の実際

取組の実際

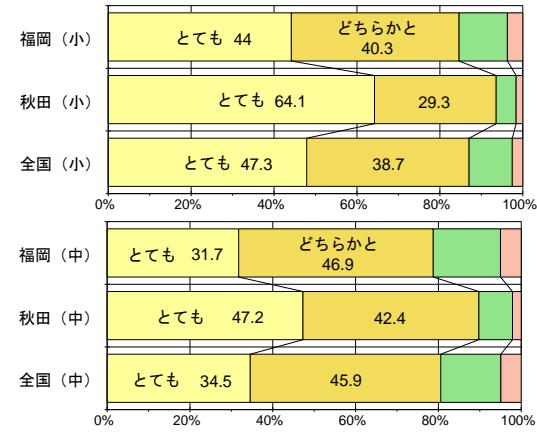
取組① 教育活動のあらゆる場面で児童生徒のがんばっている姿を評価する取組(通信等)

取組② 小・中9年間を見通して、家庭学習を【量の習慣化】から【質の向上】へ段階的に移行する取組

取組① 身に付いた力が実感できる振り返りを行う取組

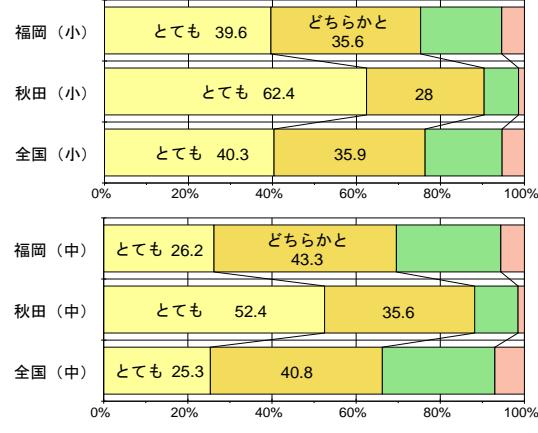
取組② 考えを深めることができる交流活動を行う取組

先生はよいところを認めてくれているか(児童生徒質問紙)

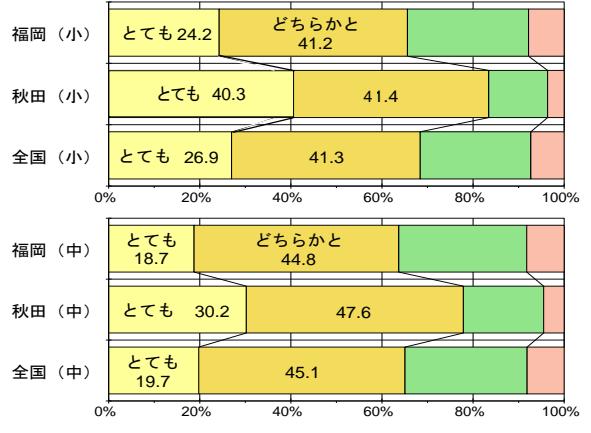


家で自分で計画を立てて勉強していると実感している児童・生徒の割合が高くなります。

学習を振り返る活動をよく行っていたか(児童生徒質問紙)



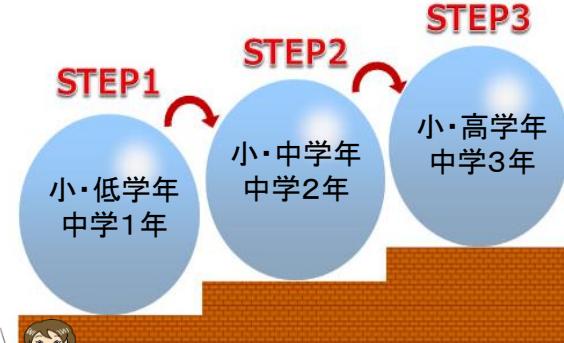
交流活動で自分の考えを深められたか(児童生徒質問紙)



今後の取組

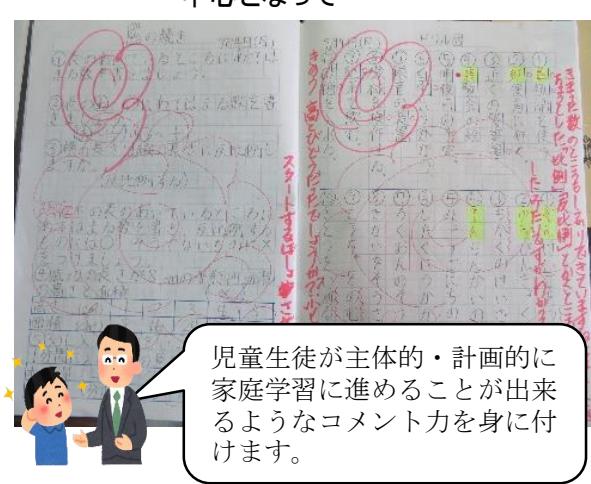
今後の取組

取組① 小中連携推進教員, 主幹教諭 生徒指導主事が中心となって



積極的生徒指導の3機能に基づいて学校行事等の目標を設定して指導計画を立てます。

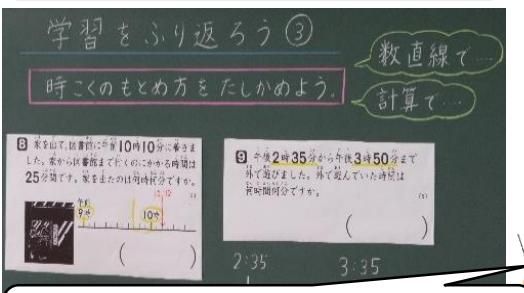
取組② 学級担任, 学年主任 校内研修担当者, 主幹教諭が中心となって



児童生徒が主体的・計画的に家庭学習を進めることができるようなコメント力を身に付けます。

取組① 教科担当, 研究主任 主幹教諭が中心となって

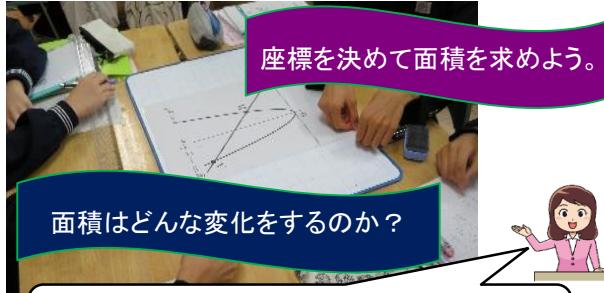
単元が終わったときに、テストとして問題を解くだけでは不十分です。



自分なりの言葉で学習内容をまとめさせたり、レポートを作成させたりします。

取組② 研究主任, 学力向上コーディネーター, 主幹教諭が中心となって

習得をめざした授業の【めあて】は(解決方法)と(学習内容)を提示します。



活用をめざした授業の【めあて】は(交流テーマを疑問形)で提示します。

まとめ ➤ 児童・生徒に自主的で計画的な家庭学習に取り組ませるためには、自尊感情の高まりを促す教師の励ましと明確な目標設定が必要です。 ➤ 授業づくりでは、生徒が交流活動を通して自分の考えを深められたり、広げられたりできたと実感できる交流活動でのテーマ設定が必要です。 ➤ 学力向上には、教員のチャレンジする意欲と行動が大切であり、その結果を分析して改善しながらまたチャレンジするというサイクルが必要です。